

謹 啓

皆様のご支援とご協力を得て、進めてまいりました
第 14 回関西建築家大賞が、この程その審査を終了し
大賞受賞者が決定いたしましたので別紙の通り発表
いたします。

2017 年 11 月 20 日

公益社団法人 日本建築家協会近畿支部
支 部 長 井 上 久 実
表彰委員会
委 員 長 木 村 博 昭

発 表

■第14回関西建築家大賞 受賞者

畠山 文聡(はたけやま ふみあき)

株式会社 NTT ファシリティーズ一級建築士事務所 関西事業本部

(大阪市西区土佐堀 1-4-14 アーバンエース肥後橋ビル 11F)

日本建築家協会(JIA)正会員 1974年生れ

■審査に提出された作品

①「NTT 西日本研修センタ本館」

用途	構造	延床面積	所在地	竣工年
事務所	鉄骨造	16,667.41 m ²	大阪市都島区	2015年

②「近畿大学東大阪キャンパス整備計画」

用途	構造	延床面積	所在地	竣工年
大学	鉄骨造一部鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造	38,984.17 m ²	東大阪市	2016年

■審査経過の概要

- ・JIA 近畿支部による関西建築家大賞は近畿支部地域で活躍する JIA 建築家に対し、そのすぐれた建築活動を顕彰する目的で発足した。今回はその第 14 回目であり、2017 年 3 月 13 日に募集を開始した。(2017 年 5 月 31 日締切)
- ・今回の募集は、近畿支部地域内に 2007 年 1 月 1 日～2016 年 12 月末日迄の 10 年間に建てられた建築 2 点の建築活動を行った建築家 1 名に対して与えられるものである。(別紙応募要項参照)
- ・受賞者には JIA 近畿支部から賞状、賞牌(陶芸家・鯉江良二氏作 陶製椀)が贈られる。
- ・審査員は 1 人の建築家である。今回は 槇 文彦氏が審査を行った。
- ・募集締切の 5 月 31 日までに 13 人の応募があり表彰委員会の書類点検を経て、書類審査(図面・写真による審査)及び現地審査を行った。
- ・審査は順調に行なわれ、10 月 19 日、槇審査建築家から審査経過及び講評が提出された。

■発表及び表彰

- ・表彰委員会は 11 月 20 日付をもって報道関係(新聞、雑誌等)への発表を行う。
- ・受賞者 畠山文聡氏に対する表彰は、JIA 近畿支部通常総会(2018 年 5 月 18 日、会場:綿業会館)の表彰&鼎談記念イベントにおいて行う予定です。

■表彰委員会は次のメンバーで構成された。

支部長	井上久実(井上久実設計室)	
表彰委員長	木村博昭(京都工芸繊維大学)	
委員	江副敏史(日建設計)	遠藤秀平(神戸大学)
	木原千利(木原千利設計工房)	坂本 昭(坂本昭・設計工房 CASA)
	竹原義二(無有建築工房)	長坂 大(京都工芸繊維大学)
	矢田朝士(ATELIER-ASH)	吉村篤一(建築環境研究所)

第14回関西建築家大賞

受賞者プロフィール



畠山 文聡 (はたけやま ふみあき)

(株)NTT ファシリティーズ一級建築士事務所 関西事業本部

1974年 大阪府生まれ

1996年 神戸大学工学部建築学科卒業

1998年 神戸大学大学院修士課程修了後、NTT ファシリティーズ入社

(株)NTT ファシリティーズ関西事業本部 建築事業部

近畿大学建築学部 非常勤講師

主な受賞歴

2012年、2013年 JIA 優秀建築選

2013年 日本建築学会作品選集

2011年、2013年、2014年、2016年 グッドデザイン賞

2010年 SDA 賞奨励賞

2011年 SDA 賞最優秀賞

2012年、2014年 SDA 賞優秀賞

2011年 JCD BEST100

2012年、2014年 省エネ・照明デザインアワード優秀賞受賞

2014年 CASBEE 大阪 OF THE YEAR 最優秀賞受賞

第14回関西建築家大賞 審査講評

審査建築家 榎 文彦

今回 JIA 近畿支部の第14回「関西建築家大賞」に対して13人の応募があり、夫々の建築家の作品2点、合計26点を6月15日、東京 JIA 本部において審査。その結果、4点の作品を実際にみることに決定。10月5日、晴天の日に支部の方々の案内によって各施設を訪問。その時の印象に基く候補者作品へのコメントがそのまま各作品の評価に繋がっているものと諒承して戴きたい。

■ 日本圧着端子製造(株) 岸下真理

大阪 淀屋橋に近い雑居ビル群がひしめく中で、前面木ルーバーで表層が覆われたこの中層ビルは視覚的にも異彩を放っている。樹齢が異なり、様々な地域から集められた木ルーバーは人間の皮膚のように一様でなく、それがかえって人間の肌を感じさせる親しみを与えて呉れている。室内に入るとその木製の縦ルーバーの外に、建具、天井、床或いは座にも徹底して木が使用され、特に日本的家具と共に統一感のある建築を提供している。

作品図面をみていた時から気がついていて、是非実際に体験してみたいと思っていたのは、略35m×30mの領域の中に設けられた5つの段段群によって構成される半階ずらされた空間と各所に設けられた吹抜け空間がどのような空間体験を与えて呉れるかという事であった。そしてそこに働くと人々がどのように交わりあっているか。

将来の増員をめざして現在必要な面積以上につくった為か、社員は比較的まばらに配置され、彼等の動きにも出会うことが出来なかった。ともあれ、若い岸下氏の意欲的な作品であることには間違いなく、今後の活躍を期待出来るエネルギーに満ちた姿勢に大変好感をもった。

■ クマリフト彩都研修開発センター 永田祐三

事前の書類選考において、その清楚でケレン味のない、白色の様々な直方体がつくり出す姿に強い印象を受けた。そしてその姿の背後にどのような空間が内包されているか、是非、それをみてみたいという欲求がこの建築を最終選考の4つの内の一つに選んだ理由であった。大阪モノレール彩都西駅の近くの小高い丘にたつこの建築の南西端部の姿は期待通りであった。既に平面図で示されるように中央廊下を中心に配列された大・中・小の様々な部屋群は決してドラマティックなものはない。しかし白の空間を濃密な建築に育てる為に、採光のあり方、開口部のディティール。敷居の色彩、白色の天井と壁のデザインの一体性等、細かいところに注意深い配慮がなされている秀作である。夫々の空間は茲で働く人達を暖かく包容しているようだ。特筆すべきは永田氏は1940

年代に生れ、村野藤吾賞を始め、数々の賞を得て、所謂ベテラン建築家であり、外にもコクのある作品も数々つくってきた建築家であるに違いない。

しかし、恐らく茲で与えられたプログラム、そして限られた予算に応えるべく簡素でしかしレベルの高い作品をつくり出していることに対して敬意を表したいと思う。

■ 岡田茂吉記念館 松尾和生

13 の作品の中で屋敷ともいえる 3 つの建物群がどのように周辺の豊饒な京都の自然の中で一つの集合体をつくっているかへの関心と興味があった。京都嵯峨野は景勝の地として知られているが、とりわけこの広沢池周辺は春夏秋冬異なった趣を与えて呉れるところである。その期待に背かぬ緑の豊かな庭園と背後に展開する眺望の中に三つの建物群は静かな佇まいをみせていた。設計者の解説にもあるように、構造的にも工夫を凝らした柱をみせない凜とした奥深い水平軒線はその前面に展開する豊かな風景に力強い枠組を与えていた。特に印象的だったのは前面の二棟は高く持ち上げられ、それ等を繋ぐ陸橋によって、北棟から地上の目線で陸橋を通して後方の風景を享受し得る仕組みになっている点であった。工夫を凝らした庭園と共に細い架構の陸橋は視るものの眼を楽しませて呉れる。建物自体も、天井、屋根面のデザインもよく考えられた秀作である。

■ 近畿大学東大阪キャンパス整備計画 畠山文聡

このキャンパスは東大阪市内にあるということで、日本圧着端子製造社の後に 2 番目に訪問した。狭い道路から校門をくぐると眼前にキャンパスが開かれている。最初に案内された国際学部棟の中央に位置を斜めにずらしたアトリウムがダイナミックに 5 層の空間を示していて気持ちが良い。そして国際学部棟と同様に木格子が卓越した表層をもった 3 号棟と 1 号棟に囲まれて低層の 5 号棟が展開していることが、3、4 階あたりからみるとよくわかる。このキャンパスの 2 層の 5 号館はキャンパス全体が更新されていくプロセスの中で何か新しいものが出来つつありますよというメッセージが高らかに謳いあげられている。何故ならば私も含めて、茲に足をふみいれたものは全く異なった空間体験を与えられるからである。周縁の建築がつくり出す軸性に守られてきた空間群と異なって、異なった 4 本の軸線に沿って展開される二十数個の小空間、その間に様々な位相をもった外部空間をつくり出している。透明な表層によって、緑の外部空間と共に重層する視線の展開を可能としている。そしてその小空間は図書、ワークショップ、ロビー等様々な機能をもった様々な活動領域を形成し、学生達は楽しげにそこを歩き来している。

.....

■ 総評

今回関西建築家大賞を決定するのは一人の選考者である。従ってその選考者が建築の何を重要視するかによってその決定が左右される。

私の場合、既に様々なところで言及しているように空間の質を重要視し、その空間の人間に例えれば生き様に強い関心がある。

ヴィルトヴュウスは建築における三つの基本的価値として用・強・美を挙げている。ラテン語の *venistas* が美にあたる。しかし最近ヨーロッパの学識者の一人がヴィルトヴュウスが *venistas* に託した意味は美ではなく悦びではなかったかと提案している。何故ならば悦びは美以上に普遍的な価値をもっているからだという。私は建築の姿よりも空間がそうした悦びを与えている機会が多いと思う。

今回近畿大学のキャンパスを訪問し、限られた時間の中でキャンパス全体を構成するすべての棟を訪れる時間をもたなかったが、5号棟に足を踏み入れた瞬間、眼前に展開する空間体験は今までになかった新鮮なものであり、又感動的なものであった。一見メイズ的に連鎖する空間体験であるが、眼をあげれば、1号棟、3号棟そして国際学部棟の木格子の表層が、羅針盤の役割を果たして呉れている。そして学生達の振舞いからも彼等がこれ等の空間のもっている自由度と規律を充分に理解して利用していることを窺いしることが出来るのだ。

私はこうした新しい空間体験を可能にしたデザインの背後には、恐らく様々な試みを通して最終的に目的とするデザインを獲得するまでの努力、そして当初より一貫して存在し続けたヴィジョンに対して深い敬意を払いたいと思う。それが畠山文聡氏を関西建築家大賞に選ばして戴いた所以である。

勿論他の三作品についても、どのような姿勢で建築の社会性を獲得されようとしたかその試みのあり方について茲でその詳述は避けるが、建築設計理念の領域の深さを一つ一つ体験させて戴いた。

最後にこのあわただしい日程の中でスムーズに充実した一日を過ごさせて戴き、あらためて現地審査に同行された木村博昭先生をはじめとする有志の方に感謝したいと思う。

第14回「関西建築家大賞」募集

趣旨

(公社)日本建築家協会(JIA)の会員建築家は、その業務において歴史的な文化を継承し、自然環境をまもり、安全で快適な環境をつくり、人々の共感と理解に支えられつつ、人間の幸福と社会文化の形成に寄与すべく日々努力しております。

この建築家の職能をよりいっそう明確なものとするために、JIA 近畿支部では近畿支部地域で活躍する建築家に対し、そのすぐれた建築活動を顕彰する関西建築家大賞の制度を設置しております。

本賞は、上記の JIA の理想にもとづき、しかも長期にわたって機能的造形的デザインの力量を実現した建築設計の実績、すなわち過去 10 年間に実現された 2 つの作品を対象とし、唯一人の審査建築家の価値観によって一人の建築家を選考するものです。

1991 年に発足したこの大賞の第 1 回から第 13 回までの審査建築家と大賞受賞者は次の方々です。

第1回 審査建築家 川崎 清氏	受賞者 出江 寛氏	第8回 審査建築家 穂積信夫氏	受賞者 木村博昭氏
第2回 審査建築家 高橋龍一氏	受賞者 木原千利氏	第9回 審査建築家 出江 寛氏	受賞者 江副敏史氏
第3回 審査建築家 内井昭蔵氏	受賞者 坂 茂氏	第10回 審査建築家 坂本一成氏	審査建築家奨励賞 森下 修氏
第4回 審査建築家 東 孝光氏	受賞者 竹原義二氏	第11回 審査建築家 香山壽夫氏	受賞者 矢田朝士氏
第5回 審査建築家 原 広司氏	受賞者 遠藤秀平氏	第12回 審査建築家 長谷川逸子氏	受賞者 生山雅英氏
第6回 審査建築家 阪田誠造氏	受賞者 坂本 昭氏	第13回 審査建築家 横河 健氏	受賞者 長坂 大氏
第7回 審査建築家 林 昌二氏	受賞者 高口恭行氏		

今回の審査建築家は 榎 文彦氏 です。

【応募要項】

資格 JIA 正会員であること。但し、非会員の方が応募しようとする場合は応募締切日の 5 月 31 日までに入会申込書を近畿支部へ提出していること。なお、現地審査実施日までに JIA 正会員資格を取得していない場合、エントリーは取消となり登録費も返金致しません。(JIA 正会員資格を得るには、以下の手続きが必要です。①所属支部へ入会申込書の提出、②理事会での入会承認、③入会金・年会費の払込 ※手続きには約 1 ヶ月かかりますので必ず事前に事務局までお問合せ下さい。) また、過去に本大賞受賞者の方は応募不可とします。

作品 2 点。近畿支部地域内に完成した建物。前回は応募作品も可。
2007 年 1 月 1 日～2016 年 12 月末日迄の作品とする。(※原則として、完成日は検査済証の日付とします)
近畿支部地域内とは、滋賀県、京都府、奈良県、和歌山県、大阪府、兵庫県をいう。

日程

・応募期間	2017 年 3 月 13 日～5 月 31 日		
・書類審査	〃 6 月	・現地審査	2017 年 7 月～9 月中旬
・受賞者発表	〃 10 月頃	・表彰式(予定)	〃 11 月頃

登録費 30,000 円 (※必ず応募締切日の 5 月 31 日までにお振込頂くか、近畿支部事務局まで直接ご持参下さい。)

応募方法 応募を希望される方は、事前に応募申込書をお送り頂き (E-Mail または FAX)、下記提出図書を各作品毎にまとめて近畿支部事務局までご提出下さい。(下記提出図書①、④、⑤は指定用紙となりますので、専用ホームページよりダウンロードして頂くか、応募資料請求用紙 (裏面) にてご請求頂ければお送り致します。)

【提出図書類】

- ①応募申込書 (※E-Mail または FAX にて事前に事務局までお送り下さい。)
 - ②図面 (配置図、平面図、立面図、断面図、主要矩計図) A2 版図面 (見開き A2 サイズ) に製本。または A3 サイズのクリアブックにおさめる。
 - ③(1)写真データ 5～10 点 (JPEG データで解像度 300dpi、長辺 1200pixel 程度のものを CD-R に保存のうえ提出下さい)
(2)写真 5 枚～10 枚カット (A4 のクリアブックにおさめる) ※(1) (2) は内容の異なる物でも可
 - ④建築概要：発注者、施工者、構造、用途、階数、高さ、面積
 - ⑤設計趣旨：800 字程度
 - ⑥検査済証の写し
- ※確認申請不要物件の場合は不要理由を明記したものをご提出下さい。

※①、④、⑤は指定用紙に記入のこと。(ホームページよりダウンロード可能 <http://www.jia.or.jp/kinki>)

以上の提出図書類を【各作品】毎に収めて 2017 年 5 月 31 日(水)までにご提出下さい。

※封筒、図面、写真、にそれぞれ氏名・作品名を明記

※作品を持参の場合は 9:30～18:00 の時間内(土日祝日は除く)、郵送の場合は当日消印有効とします。

応募提出図書類は 2017 年 11 月以降に返却致します。また提出図書類作成・送料に要した費用は応募者負担とします。

付記 応募作品や図面・写真等に関する著作権、特許等は応募者もしくは権利保有者に帰属します。ただし、作品発表に関する権利、及び発表に際して作成する制作物の著作権は主催者に帰属するものとします。

【審査建築家 及び 表彰】

- ①審査建築家 榎 文彦氏 (榎榎総合計画事務所)
- ② 表 彰 大賞1名。該当者がいない場合は、これに準ずる表彰を行うことがある。
審査結果は、JIAのWEBサイト及び会報誌、新聞及び雑誌等に公表する。表彰関連イベントは未定。
- ③ 賞 賞状、賞牌 (陶芸家・鯉江良二氏作品)

付 記 受賞者は、JIA 近畿支部が関係資料を掲載、展示など、啓発の目的に使用する場合は無償で貸与すること。

榎 文彦氏 (審査建築家) プロフィール

略 歴

建築家。1928年東京に生れる。東京大学工学部建築科卒。
ハーバード大学デザイン学部修士修了。後に両学部にて教鞭をとる。
1965年、榎総合計画事務所設立。その代表取締役として今日に至る。

主なる作品:国内では慶應義塾大学新図書館(1982年)、スパイラル(1985年)、京都国立近代美術館(1986年)、幕張メッセ(1989年)、慶應義塾大学藤沢キャンパス(1990年)、ヒルサイドテラス(1969年～92年)等があり、海外では MIT メディアラボ(2009年)、アガ・カーントロント美術館(2014年)、4WTC ニューヨーク(2016年)等がある。

主たる受賞:日本建築学会賞、毎日芸術賞、朝日賞、海外からはプリツカー賞、UIA 及び AIA ゴールドメダル等がある。

著書:見えがくれする都市(共著、鹿島出版会)、記憶の形象(筑摩書房)、漂うモダニズム(左右社)、Nurturing Dreams(MIT Press)、今年7月に岩波書店より‘残像のモダニズム’が出版の予定。
日本芸術院会員、文化功労者。

■お問合せ・提出先 公益社団法人 日本建築家協会近畿支部
表彰委員会 (事務局)
〒541-0051 大阪市中央区備後町 2-5-8(綿業会館)
TEL06-6229-3371 E-Mail jia@bc.wakwak.com

■振込先 (登録費)
三菱東京 UFJ 銀行 大阪営業部
普通預金 1147965
公益社団法人日本建築家協会近畿支部

きりとせん

第 14 回関西建築家大賞 応募関係資料請求用紙 (FAX返信 06-6229-3374)

フリガナ 応募者氏名	
勤務先	
連絡先	〒 TEL _____ FAX _____ E-Mail _____
種別 何れかに○を	<input type="checkbox"/> JIA 正会員です <input type="checkbox"/> JIA に入会していません (入会資料送付を希望します)

※応募関係資料は専用ホームページ (<http://www.jia.or.jp/kinki>) よりダウンロードすることも可能です。